

編集後記

初夏の風と共に23号をお届けします。

今号は、新しく着任された先生方に執筆をお願いしました。今号を読んでおけば、初めてお会いしたときにも話題がすぐ浮かび、きっと緊張せずにお話できるでしょう。質問したいことがあったらどんどん質問しましょう。きっと先生も待っているはずですよ。

それから、今号には2009年度外国語コンテストの報告と優勝作も載っています。どの語系も接戦だったようですが、参加者の減った語系もあるようです。「宝くじは買わないと当たらない」と言います。コンテストは出場しないと優勝できない。秋学期までまだ十分準備の時間があります。奮って参加しましょう。勇気を持って！まずは、学内コンテストでスピコンへの第一歩を踏み出しましょう。

さて、今号は全35頁という久々のボリュームとなり、読み応えも十分あったのではないかと思います。あらためて目次を見ますと、アメリカに関する記事が3つありましたが、所変われば...で、オレゴン、ミズーリ、ネバダのまったく異なった記事内容に、アメリカの広さを思い知り、好奇心をそそられます。JASSOの統計では、年間約8万人が海外留学していて、愛大の海外セミナーのような大学間の協定留学の場合、派遣先1位はダントツでアメリカです。しかし、2位はオーストラリア、イギリス、中国、カナダが毎年入れ替わるほど競い合っており、それを韓国が追いかけています。愛大のセミナーも今挙げた国すべてで実施してきました。

セミナーは、単位を取得しつつ見聞を広められる点がいのですが、もちろん、留学以外の形で海外に行くのも「アリ」です。例えば、今開催中の上海万博に愛大生も通訳ボランティアとして参加する予定です。その中には愛大に留学して、愛大生として母国に戻って活動する留学生もいます。さあ、進みましょう、何度でもボーダーを越えて。(U)

愛知大学言語学談話会

第35回

公開講座「言語」2010 後期プログラム

【会場】愛知大学車道校舎本館13階第3会議室
都合により会場を変更する場合がありますので、開催当日、本館入口等の案内によりご確認ください。

【時間】午後2時半～4時半

2010年

9月11日(土)

「レチフ・ド・ラ・ブルトヌの言葉遊び」

田川光昭(愛知大学経営学部教授)

10月2日(土)

「コトバの学としてのイスラーム神学

スポーツからカラームへ」

鈴木規夫(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)

11月6日(土)

「秋の糸を吐く青虫」

矢田博士(愛知大学経営学部教授)

12月4日(土)

「談話構成の要因 情報構造」

北尾泰幸(愛知大学法学部准教授)

2011年

1月8日(土)

「ことばとジェスチャーの繰り返しを示す言語文化的指向性」

片岡邦好(愛知大学文学部教授)

聴講無料・事前申込不要



上海万博のマスコット「海宝」と記念写真